



トピックス

2024年3月28日

高騰する商品市況～金、原油、ココアも～

金や原油に加えココアも高騰

3月に入り商品市況が高騰しています。様々な商品の総合的な価格を示す指数は年初から10%近く上昇し、昨年の高値に迫る勢いです。主に、金や原油が上昇しています。また、チョコレートに使われるココア豆に至っては年初から約3倍程度に急騰しています。(図表1～4)。

図表1. 国際商品指数 (商品先物指数)



図表2. 金価格



図表3. 原油価格



図表4. ココア豆価格



価格上昇の要因

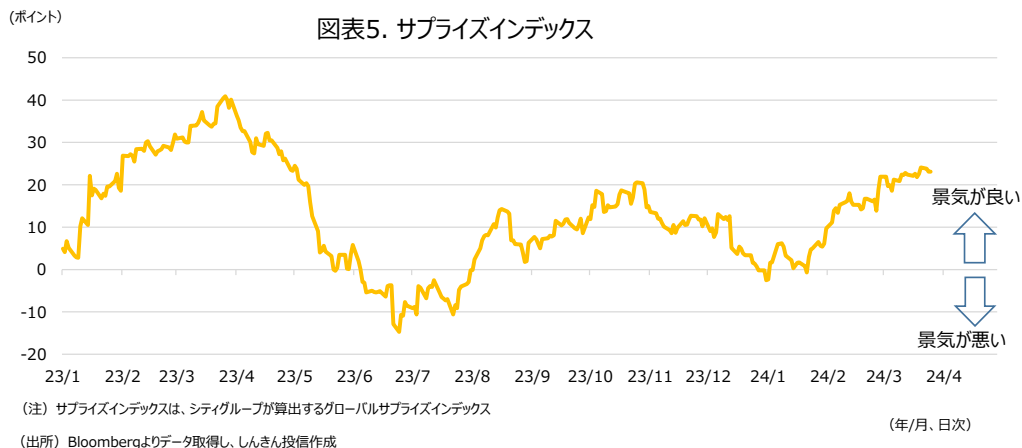
価格上昇の要因は、個別の商品によって異なりますが、大きく分けて以下3点が挙げられます。

① 堅調な景気

昨年末時点では、米欧の金融引き締め継続が重しとなり、2024年の米国などの経済成長率は鈍化するとの見方もありましたが、世界経済は予想外に好調です。経済指標が市場参加者の予想を上回ったか、下回ったかを示す指数(サプライズインデックス)は年初から上昇基調にあります(図表5)。

予想以上に底堅い景気を受けて、商品に対する需要が今後高まるのではないかと観測が広がっていることが、商品価格を押し上げる要因となっているとみられます。

図表5. サプライズインデックス





しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

②紛争

ロシアとウクライナの紛争および中東における紛争が商品価格を押し上げています。

今年に入り、ウクライナはロシアのエネルギー収入を減らすべく、ロシア国内の複数の製油所をドローンで攻撃しています。主要な石油生産国のひとつであるロシアの供給能力低下への懸念が原油価格上昇の要因となっています。

また、イスラエルによるガザ地区への攻撃への反発から親イラン武装派組織フーシ派が紅海で船舶を相次いで攻撃しており、各国の企業は海上輸送ルートの変更を迫られています。これにより、輸送コストが上昇し、原油などの商品価格を押し上げる要因となっているとみられます。

金については、紛争などを受けて地政学リスクが高まると上昇しやすいとされており、二つの紛争が最近の価格上昇要因になっているとみられます。

③気候変動

昨年からの干ばつの影響による水不足のため、パナマ運河を経由した海上輸送の制限が続いています。世界で最も重要な海上輸送ルートの一つが目詰まりを起こしていることで、各国の企業の輸送コストが増加し、様々な商品価格の上昇につながっています。

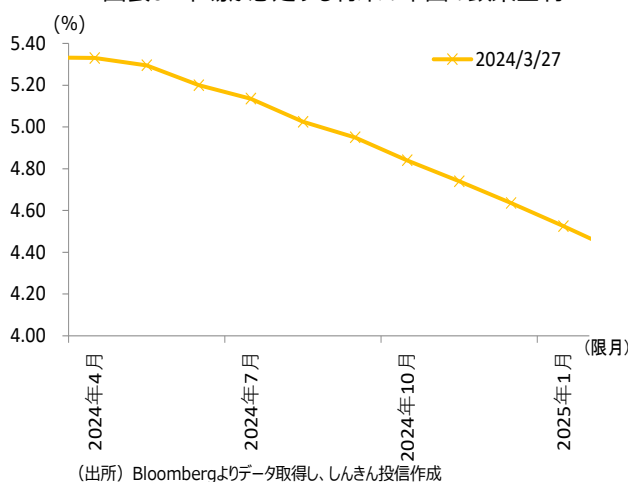
また、主要な生産地である西アフリカの天候不順などを受けて不作が続いていることからココア豆は急騰しています。

金融市場への影響

米連邦準備理事会（F R B）は3月の金融政策に関する会合で年内3回の政策金利引き下げを示唆しました。これは米インフレの鈍化を受けたものです。ただ、商品市況が一段と高騰すると落ち着いてきた米インフレが再び加速する恐れがあります。そうすると、F R Bは利下げを行えなくなる可能性があります。

F R Bが利下げの方針を示したことを受けて、市場も年内3回程度の利下げを織り込んでいますが、予想外に利下げが行われなくなると、このところ落ち着いた動きとなっていた米長期金利が再び上昇することが懸念されます（図表6,7）。

図表6. 市場が想定する将来の米国の政策金利



図表7. 米長期金利



(ストラテジスト 澤村 一樹)



しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会／一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL : [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

＜本資料に関してご留意していただきたい事項＞

※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。

※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。

※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。

※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。

※投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■投資信託に係る費用について

（お客様に直接ご負担いただく費用）

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 上限 3.3%(税抜 3.0%)
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 上限 0.3%

（保有期間中に間接的にご負担いただく費用）

- ◆ 運用管理費用（信託報酬）・・・純資産総額に対して、上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用（手数料等）の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。